

じっとしていらぬ気が持たず、手作りの小さな刺り物をお許にお届けします。不馴れで字も揃はず、お読みになりにくいでしょうが、どうぞ大目に見て下さいませよように。

二月の終り頃、英仏海峡の小さな島で夫や子供と暮している頃から、次のようなショッキングな便りが来ました。それによると、

「近くのフランスの海岸に原子力発電所とその再処理工場があつて、そこから洩れる放射能で牛乳や海産物が汚染されて被害がはじめている上に、近く大広張の予定との事で、しかもそこでは日本の原発の廃棄物の大部分が再処理されることになって、そのたそうです。万一大事故が起れば四十以内は吹きとんで了うという事ですが、そうでなくても大気中や海に放出され流れる放射能の影響がおそろしいので、皆で相談して反対運動をしてゆくつもりです。小さい島で人口も少いのと、どこまでやれるか不安です。日本ではこういう事を知っているのてしよつか。どう考えているのてしよつか。資料があつたら送つて下さい」というものでした。

私もこれまで、原子力発電にはいろいろ大きな危

いるといふ事です。その放射能は植物にだけ作用するわけではなく、人間の細胞、殊に細胞分裂の盛んな胎児や乳幼児に影響する心配が大きいとの事です。ムラサキツユクサのように、すぐ目に見えないだけの事ですが、二十年、三十年元の事、子供や、又その子供たちの事が心配です。

自然界にも放射能は存在し、人間は否応なしにそれを浴びているのだから、少し位の事は心配ないと云う人々もあるようですが、自然界のものと、直ぐ近くに強力な発生源のある放射能とは、比較にならない影響力の差があるといふ事です。

原発の排水中に含まれている放射性毒物は、最初日徹量であつても、海草やプランクトンに吸収され濃縮され、更に奥奥に濃縮されて、何百倍、何千倍となつて私たちの体に入って来ます。

英国のウインズケールにも再処理工場があり、そこは既に日本の核廃棄物の再処理をしています。ここでも放射能汚染は日常の事にさうですが、附近の住民は木ルブイラという海草を食べる習慣があり、そのための放射能障害を受けたと報じられていました。再処理工場と云うのは、たゞさえ危険な原発の、更に三百倍もの放射性毒物を作り出してさうと云うので、その排出を政府も認めています。煙突は原発の二倍の高さにし、排水管は二kmの沖合迄延長して、

除性があることを「消費者リポート」を通過して知らされてはいましたか、いきなり目の前に緊急の課題として突きつけられた思ひで、すっかり慌ててしまいました。

二才の誕生日にあららへ行き、今年は何才になる珠もいますし、秋には又新しい生命も生れようとして居るので、幼い者たちが危い。

急いで出来るだけの資料を集めて送り、自分でも読んで見ると、これはイギリスやフランスだけではなく、日本でも今直ぐ、みんな考へなくてはならない、本当に大変な問題だといふ事が次々に解つて来ました。原子力発電(以後「原発」と略します)の安全性、必要性は大きくPRされては来ましたが、危険性、問題性は余り報道されずに来ました。

電力会社や政府は、事故があつても出来る大隠さうとし(美濃原発で燃料棒が溶けた大事故は四年間も隠されてきました)、原発で働いている人々が、白血病や癌で死んでも放射能の故ではないと云い、(殊に出稼ぎの臨時工事に被害が集中する)放射能は洩れていないと言ひ流けています。

けれど京都大学の市川定夫博士の研究によると、静岡県の大岡原発の周囲に植えたムラサキツユクサのおしへが、原発の運転時に青からピンクに変わり、放射能汚染による細胞の天然変異を、正直に示して

その上、再処理によって取り出されるプルトニウムは、簡単に原爆を作る材料になり、一円で百万人が肝病になるといふ恐しい毒物で、その猛烈な毒性が半減するのに何と二万四千年かかるのです。

アメリカのカーター政権は、日本を始め各国に再処理をしないように働きかけていますが、どの国も仲々断念しそふもありません。

しかし、そんな恐しいものを、次々と作り出してゆくのは後始末は一体どうするのでしよう。

プルトニウムの管理の方法も、次々と出る死の灰の捨て場も目途がつかず、永久保存しなければならぬ死の灰か、東海村にドラム缶に既に二万五千本、日本中には八万本も溜つて居るさうです。

(原発は「トイレスキマンション」と云はれます)こんな悪魔のような遺産を残されたら、我々の子孫はどうやって生きてゆけるのでしよう。快適な生活のためにも、とエネルギーを、原子力発電を、と云つてこれ以上毒物を作り続け、その後始末を子孫に押しつける事は、とんでもない犯罪ではないでしようか。

「われわれの先祖は罪を犯して、既に世になくわれわれはその不義の責を負っている」を歌う七節子孫をこのように嘆かせない為には、今直ぐ、真剣に考えようではありませんか。